

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 206 号)

発行日：2024 年 (R6) 9 月 18 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)



## 戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！

「戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！」をトップに記入し始めてから(2022/3/16 176 号～) 随分時間が経ちました。あるのが当たり前前の感じが……。気にもならない？その間、イスラエルがガザに侵攻。パレスチナ人には人権が無い？「ハマス」をせん滅してもまた次の「ハマスのようなもの」が生まれる。世界中は危険な状態に。だから、日本も防衛力強化が当たり前の議論に。GDP 2%？自国を守る！大事なことです……。

かたや「令和の米騒動」。うちにも急に「米ないか？」の問い合わせが。ありがたいことに昨年の米は完売いたしました。感覚として「どうして？新米が出る直前に？陰謀論？」。政府が「備蓄米」を出さないということは市場には十分ある？

騒動のおかげか、今年の JA の米買い取り仮渡金（さらに販売状況によって 2 度ほど精算）は約 2 割増し。本来の「適正価格」がいくらなのかよく分かりませんが、農家にとってはありがたい。しかしコメ離れを助長させるのでは……。もともと西谷のような中山間部の農家は「米」では黒字が出ない。

日本の食料自給率は、カロリーベースで 38%。自国を守るとはいったいどういうことなのでしょう。自給率が低いなら武器ではなく、世界平和と持続可能な一次産業保護を目指さなければと思う今日この頃です。食えなければ国は滅びる。金のかかる農業もいらんよ。圃場の大規模化と数千万円の農業機械で、生物多様性も壊滅へ……。ニッチな農家が生き残れる環境を保証してほしい。あくまでも個人的な意見です。

よく考えたら、「自分が食べる分は自分で作る」。これがいちばん強い食料戦略か？ちょっと話が飛躍しすぎ……。どうもすいません。(今住 9 月 16 日作成)

## 定期活動 ★8 月 25 日 (日) 遊歩道道際ササ刈り 10 名で作業

この時期は湿原内の植物をいじることができず、作業はササ刈りが中心となります。暑いこともあり、今回は湿原まで行かずに相当伸びた歩道脇のササ刈り。道際ではありますが、貴重種もしば



ササ刈り 手作業

しば出ます。ササを刈らないでおくと、地表に日が当たらなくなり貴重種も出ることができません。ロケーション的にもすっきりと。

ただ暑い！じっとしていても「うだる」よう。毎日の事ですが結構危険。それぞれ無理の無い程度に黙々と。暑いから会話が弾まないのか？保全活動に真摯に向き合う姿なのか？ご想像にお任せします。

実は私、村の作業（川掃除）で参加できていません。村のほうも川の中とはいえ暑く、黙々と作業していました。

今回の丸山の作業の中で驚く報告がありました。なんと「スマートフォン」の発見。ケースの中



ササ刈り取り中



刈り取り後の歩道

には私の名刺が。実はこのスマートフォン、5月2日から行方不明になっていたもの。たまたま知り合いになった方が丸山湿原にご興味を持たれ、「行ってみる」と。もう夕方が近かったので「別の日に行ってくださいね」とお別れしました。ところがその後に行かれたようで、暗くなってから「スマホ無くしました」と戻ってこられました。「それは大変」でも夜に探しに行っても無駄。呼び出ししても「電波の届かない…」と冷やかな機械の声。

道沿いに違いないと翌日に探しに行くも全く見つからず。「とにかく携帯会社に相談してください」と連絡しました。えらいもので、電波の途切れた付近までは場所を特定。丸山近くの電波が届かなくなる場所。(森公園から少し入った所)丸山付近にあることだけは間違いないようですが見つからず。保険に入っておられ、バックア



4か月ぶりに発見された スマホ 動きませ

ップもクラウドにほぼされていたようで何とかあったようですが、相当困られたようです。

それが4か月の時を超え、発見されました。そして先日私のもとに。しっかり乾いていたので充電。電源を入れてみるとバッチリ起動しました。もちろんパスワードも指紋も顔も違いますので電源のみのチェックですが。すごいですね、最近の機械は。本人の手元にはまだお届けしていませんが、スマホにだけの保存のデータもあるはず。よかったよかった…よくぞ見つけてくれました。ありがとうございます。作業のたまもの。次はインゴットを見つけましょう。その時は内緒やで～。

### ガイド研修ツアー ★9月7日(土) 岡山県新見市「鯉が窪湿原」 15名参加

「畑崎財団」(ワールド)から表彰を受け、その賞金を原資に「ガイド研修ツアー」を実施しています。バス代が高騰していつまでできるか不安にはなっていますが…。あくまでも現地のガイドさんから学び、自分たちのガイドスキルを上げるのが目的です。もちろんその土地の観察も重要。

この手の研修ツアーは遊びのように思われがちですが、お遊びはほぼ無し。弁当持参。湿原以外は、「親子孫水車」の見学と「道の駅鯉が窪」に寄っただけ。

鯉が窪湿原は、「鯉が窪池」の池頭(ちとう=池のほとり)にあります。標高は530m前後。泥炭がある?高層湿原(中間湿原?)には見えないが…。この溜池は「日本のため池百選」に選ばれています。江戸時代(安政)に大規模な築堤がなされ奥備中の重要な水利となっている。高梁川の支流域。その後2回の嵩上げにより巨大な池に。周囲は流れ込む川も無い。周辺の谷から出る水を集めた谷池。周辺の里山は明治から昭和初期まで放牧地・採草地の入会地(いりあいち)だったようで、山は疎林(今は放置林)。しかもなだらか。湿原成立の条件ピッタリです。面積が広い。現在は池の周囲に3.6haの湿原が残っています。堤体が高くなる前は今の数倍の湿原だったようです。泥炭は水没か?



鯉が窪池記念碑



実は沢ありの鯉

戦後早い時期に岡山県の天然記念物に指定。その後なぜか解除。荒れ果てた？企業が買い取って開発する話もあったそうですが、町（現市）が買い取り 1980 年（昭和 55 年）に国の天然記念物になったそうです。かなりの紆余曲折と苦労を感じます。丸山湿原とも酷似。



恐らく水があるはずの木道

丸山湿原で見られるものも多くありますが、**ビッチュウフウロ**（備中風露）がちょうど見ごろを迎えていました。ぱっと見はゲンノショウコ。花の模様の特徴があります。大変希少で群生地としては唯一と言ってもいいようです。あと印象に残っているのは**シラヒゲソウ**（白髭草）。まさしくぐちゃぐちゃの髭が生えているような花でした。ウメバチソウの仲間。ウメバチソウと似ていますが、葉の付き方が花茎を抱くように 4 枚から 5 枚。ウメバチソウは 1 枚だけ。鯉が窪にはウメバチソウは無いようです。**ミコシギク**（御輿菊）も見られるかと期待したのですがまだ蕾は固い。珍しい個体があって、1 つの花茎から 2 輪の花が咲くそうです。マーガレットそっくりの花のようです。見たかった。



ビッチュウフウロ

全体的な印象（エリアによるが）として**ヨシ**（葦）の繁茂や**ミソソバ**（溝蕎麦）が結構生えていました。ノハナショウブも群生するとか。やや富栄養気味（丸山湿原より）なのかな？昔、田んぼがあったのかも？とも考えてしまいます。



花に髭が生えたようなシラヒゲソウ

湿原は一見草原。植生は少々違うものの丸山湿原の草原と共通する部分が垣間見れてうれしくなりました。「わからん人が見たらただの草ばーばーの原っぱと思われます」とガイドさんが説明されてました。ガイドの重要性ですね。

外来種問題もあって、オオキンケイギクも一時入り込み駆除に相当苦労されたとか。こんな所にも入り込むものだと驚きました。池の下までマイクロバス（大型もか？）が入るからね。アクセスがいい所は外来種も入り込みやすいですね。



ただの草原…これよこれ大事

保全活動は主に水利組合の方が中心に「会」としてされているようで、この時期の訪問は「ガイドさん」手配に苦労されるようです。行く途中コンバインが忙しく動いていました。農業が盛んな様。ピオーネ（シャインマスカットに切り替え中）・リンドウ・米が中心か？米は西谷地区の米の買い取り価格より約 1500 円も高い。（30 kg）神代（こうじろ）という地域もあり、「神様の代（代＝田地）と言われ、おいしい米がとれるんですよ」と自慢されました。高いには高い理由があるのでしょうか。ちなみに三田の米は西谷より 100 円高い。これはブランディングの問題か？生産量の問題か…。ちょっと不満。



まだ蕾のミコシギク 2 輪咲き



迷がないガイド 水上さん

ガイドの水上さんは「道の駅鯉が窪」のオーナー。農業もされているようですが、この時期のガイドはすべて引き受けているとのこと。冬は狩猟も。シカはまだ少なく、イノシシがよく獲れるようです。兵庫では「豚熱＝豚コレラ」で少なくなり、販売もできない状態なので、丹波篠山方面にも出荷しているそうです。言うたらあかんのかな？



いちばん奥が湿原 池の堰堤で記念写真

ガイドは明解。少々言い間違いもありましたが自信をもって解説されていました。しっかり言い切る。ガイドにとって重要なことだと感じました。

しっかり研修いたしました。今回参加した皆さんは、「丸山湿原ガイド」にどう役立てるのか？これからが楽しみです。

### 定期活動 ★9月14日(土)

目的	市内	市外
丸山	70	110
ハイキング	40	62
散歩・登山	3	6

来場者数計 291 人  
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:00	31.0℃		
第3湿原	10:35	【27.3℃】	62.6 μS/cm	6.3
視点場	10:55	33.5℃	測定不能	—
第1湿原	11:03	【24.5℃】	51.2 μS/cm	6.0
第2湿原	11:30	【25.5℃】	42.2 μS/cm	6.2

やはり暑い。昨年この時期はスズメバチ問題にあたふたしていましたが、虫も少ない。あまりに高温になると虫も動かなくなったり、鳴かなくなったりするそう。もう一つ気になるのは、今年はヒグラシがほとんど鳴かなかった。代わりにツクツクボウシ(寒蝉)の音がやたらに。虫に(蚊も含め)刺されることも少ないような…。雨が少ないことも影響しているのかもしれない。

ここ数日は連日夕立らしきものが降っています。するとたいしたもの、春に出そびれたキノコがたくさん顔を出しています。今回初めて見つけたのはタマゴタケ(卵茸)。白い殻のような膜に包まれ発生。その後、中から赤玉の黄身のようなものが出てきて赤い傘が開く。食用として人気の高いキノコです。それが竹筒ポスト近くの道際に生えていました。開ききったものもありましたが出かけのものも。美しいが誰も持って帰ろうとはしませんでした。信用していない？ひとりの時は持って帰る？隣の色の落ちたタマゴタケは？？？ですが。やっぱり勇気がいります。店で並んでいたら(並ぶことはないキノコだとは思いますが)食べるんですがね。採る人は大して変わらないのに、顔が見えない安心。見える安心と見えない安心。人間も…ふ・し・ぎ。



かわいいタマゴタケ



終わりがけのタマゴタケ

第1湿原中央部にあった盆栽仕立て？のアカマツ(赤松)が枯れてきました。原因は、土嚢ダムによる地下水位の上昇か？根腐れ？それとも他に原因があるのか。アカマツは最近すぐ枯れるからね。原因はいまいち不明。ダムが役目を果たしていると考えましょう。

ヌマガヤ(沼茅)も順調に？穂を出して秋の準備をしています。猛暑ですが…。さて、いつまで続くやら…。



枯れそうなアカマツ



ヌマガヤの穂が出てきました

次回活動日 9月22日(日) 10月12日(土) 27日(日)「愛す会」との協働作業(午後3時まで)